

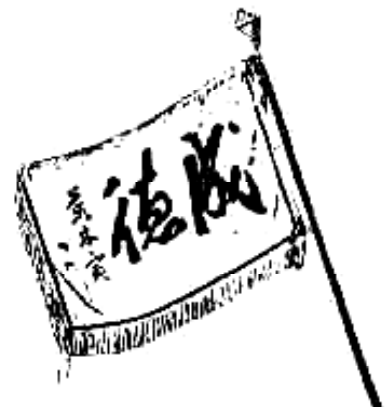
## 『成徳』の由来

校歌にある「成徳の旗 ひるがえる」の成徳の旗は、昭和4年(1929年)8月に校旗として制定され、昭和38年(1963年)に現在の校旗が制定されるまで、校旗「成徳旗」として多くの先輩諸子の心の拠り所となり、親しまれてきました。現在は朝来市の重要文化財として指定され、表装も施されて資料室に保管してあります。

ところでこの「成徳旗」ができたきっかけは、昭和4年、京都大学総長荒木寅三郎博士を招いて教育講演会を開いたことに端を発します。その講演会には、父母はもとより町民多数が講堂にあふれ、情熱込めて説かれる博士の演説に聞き入り、深い感銘を受けたのです。そして、これを機に、同博士に揮毫を乞うたところ、博士は、講演の内容を踏まえて雄渾な「成徳」の2文字を真白な絹布に大書されたのです。

「徳器を成就せん」という意味を持ちます。

昭和4年8月27日に開催された校旗入魂記念同窓大会で同博士は次のように述べられています。



諸君！

私は当校より才智にのみ長づる児童の出づることを希望致しませぬ。  
又当校より学芸にのみ通ずる児童の出づることをも希望致しませぬ。  
私は切望いたします、当校より至誠一貫の児童の出づることを。  
私は切望いたします、当校より彝倫<sup>いりりん</sup>道徳を修め、将来本末を誤らざる児童の出づることを。

私は斯くの如き児童を養成する為めに此の校旗がお役に立つと信じます。

(数歩進み校旗に向かい)

成徳旗 長しえに当校の 精神となれ！

(註「彝倫<sup>いりりん</sup>」とは、人の守るべき道のこと)

それを校旗に仕立て、以来この「成徳」を校訓とし、教育の根本理念として継承してきました。これからも、生野小学校は「成徳」の教えを指標として、学校経営に取り組んでいきたいと考えます。